

「地域とともに歩む運送会社」として 地元根差した事業活動を展開し続ける

千葉県最北端にある野田市関宿地区で長年事業を展開している河井グループ。その主軸となる河井運輸(河井哲弥代表取締役)は、建設用電線の加工・輸送などを手がける運送会社である。

同社では、取引先である荷主企業との協力体制を強化し、荷主企業から「オンリーワン」の運送会社として高く評価されている。そして、「関宿地区を盛り上げたい」との思いから、地域貢献活動にも注力。「地域とともに歩む運送会社」として、今後も地元根差した活動を展開していく。



建設用電線などを輸送する同社の平ボデー車の前に立つ河井社長

■荷主と連携してさらなる輸送品質向上に挑戦 労働環境改善にも果敢に取り組む

河井運輸は、河井社長の父親である河井弘氏によって昭和50年に設立された。河井弘氏は、昭和39年に自動車整備工場を開業したのを皮切りに、河井石油(株)(46年)、河井倉庫(株)(50年)、カワイコーポレーション(有)(61年)を設立。これらの会社からなる河井グループは、地元密着型の事業展開を続けてきた。

同グループの主軸となる河井運輸は、輸送事業部・電線事業部・YS事業部・AM事業部の4事業部から成り立っている。主な事業としては、電線事業部の作業員が加工した建設用電線を輸送事業部のドライバーがトラックに積み込んだ上で北関東の事業所に輸送している。また、YS事業部ではイベント器材の管理・修繕および荷役作業を、またAM事業部では什器・マネキンに関する荷役作業を手がけている。

電線事業部では、荷主である電線メーカーが製造した電線を作業員が切断加工したり、フォークリフトによる構内での荷役作業を行っている。建設用電線については、電線メーカーではユーザーの多様なニーズに応えるために様々な電線を開発・製造しており、素材や形状、用途などによって、その種類は非常に多い。また、時代の流れとともに、建設用電線の種類や用途も変化している。そのため、採用したばかりの作業員には、1週間ほど電線メーカーの工場で電線の種類や用途などを覚えてもらい、知識不足に伴う商品事故を未然に防ぐようにしている。そして、工場での荷役作業に関してはマニュアルを整備し、商品を取り扱う際の注意事項や構内作業での注意点などについて、同社独自の安全教育を実施している。

同社では同電線メーカーと連携して、受注から製造、加工、輸送までのスピードアップ化への取り組みを続けてきた。

同電線メーカーでは、ユーザーからの注文を夕方5時まで受け付け、翌日に電線を製造。それを受けて、電線事業部ではその日のうちに商品加工を行い、輸送事業部のドライバーがその電線をトラックに荷積みした上で、受注の翌々日にユーザーに届けるという体制を長年とっ

ている。かつては、受注翌日の夜中まで商品加工や荷積みなどの作業に追われることも少なくなかったが、現在では作業員やドライバーのスキルが大幅に向上したこともあり、スムーズに作業を進めることができているという。

また、荷主である同電線メーカーとの連携が図られているために、ドライバーの荷待ち時間が少なく抑えられていることなどもあり、電線事業部の作業員も輸送事業部のドライバーも定着率は非常に良いと、河井社長は語る。

「当社の大きな特徴のひとつが、当社設立から47年間、取引のある荷主が電線メーカー1社のみだということです。当社設立以前から父が経営していたガソリンスタンドに、同荷主の車がやってきて、ガソリンスタンドにいた母に『このあたりで新しい工場を立ち上げたい』と話しかけてきました。両親は当時から不動産業を手がけていたため、工場の土地を手配することができました。その際に、両親は荷主に対して、『土地の仲介手数料はいらないから、その代わりに工場に関する仕事をもらえないか』と伝えました。同荷主との取引を機に当社を設立し、運送事業に本格的に参入しました。同荷主とは、当社の設立当初からお付き合いをさせていただいており、同荷主と強く連携しながら、当社では輸送品質向上への取り組みを継続しています」(河井社長)

同社のある野田市関宿地区は千葉県の最北端に位置しており、埼玉県や茨城県と県境を接するほか、栃木県からもそれほど遠くない場所にある。同地区は「関東のへそ」とも呼ばれ、古くから交通の要所として栄えてきた。

河井社長はこれまで、「地域とともに歩む」を信条に、同社の経営にあたってきた。その思いを強く示すように、現在同社に在籍している30人の従業員の8割が地元エリアの出身者となっている。

また、同社では地元地域の活性化に繋げようと、地域貢献に資する



河井 哲弥 代表取締役



電線事業部では、メーカーが製造した電線の切断加工などを行い、商品の付加価値を高めている



河井社長は従業員に対して、「この地域で汗を流すことの重要性」を常に訴えるようにしている



地元を応援する「のだ関宿盛り上げ隊」では7月にイベントを開催。当日は2000人もの来場者が集まった

様々な取り組みを積極的に推進している。

河井社長や同社の従業員がボランティアで参加している「のだ関宿盛り上げ隊」では、この7月に「肉肉肉まつり」を開催。電線事業部の商品加工場にある700坪の敷地にステージを設け、地元の子供たちによるダンスを披露したほか、ステージを取り囲むように飲食ブース13店舗に出店してもらい、様々な肉料理やスイーツなどを提供。当日は2000人もの来場者があったという。

さらに、令和元年に千葉県を襲った台風の際には、河井社長や同社の従業員が台風による強風の被害が大きかった君津市を訪ね、損壊した屋根にブルーシートをかけるなどの被災地支援を行った。

「全ての企業は、地域の皆様によって生かされ、事業を展開することができていると言えるでしょう。当社としては、様々な地域貢献活動を通じて地域の皆様から信頼していただける企業を目指すとともに、地域の皆様から『河井運輸さんなら安心だ』と言われるような会社に行きたいと考えています」(同)

河井社長は高校卒業後、同社でドライバーや管理者として運送業界の経験を長年積んできた。バブル景気の頃には同グループ内の不動産会社の社長を務めていたこともあったが、その後は再び運送業界の道を進み、今年6月に河井社長の母親である弘子氏に代わって同社の社長に就任した。

河井社長は現在、同社の経営と並行して、大学生として流通経済大学に通っている。河井社長は社業を通じて実務経験を積み重ねてきた一方で、「物流を体系的に学びたい」という思いを長年抱いていたという。本誌に掲載されていた同大学への推薦入試の案内を目にした河井社長は、大学への入学を決意。試験(小論文と面接)を受けて見事合格し、大学生として日々勉学に励んでいる。

「私を育ててくれたこの業界のことをより深く、そして理論的に学びたい」との思いから、流通経済大学の門を叩きました。50歳を過ぎてからの入学だったこともあり、一般教養科目では他の若い学生たちに付いていくのが大変でしたが、現在4年生となり、残るのは卒業論文だ

けになりました。来年春には無事に大学を卒業し、その後大学院生になることを目指しているところだ」(同)

「この街で生まれ、学び、この街とともに」をモットーとして、初代社長の河井弘氏、二代目社長の河井弘子氏からバトンを引き継いだ河井社長。河井社長は今後も引き続き、地域とともに事業を継続していきたいと考えている。

「『会社というものは地域とともにあるべきだ』という考えを、荷主とも共有しており、今後も荷主と二人三脚で、地域のために頑張っていきたいと考えています。トラック運送業界では現在『物流の2024年問題』が最大の課題となっており、ドライバーの確保に苦しんでおられる事業者も少なくありません。しかしながら、当社では荷主の理解を得ながら労働環境改善への取り組みを進めてきたこともあり、当社では幸いにしてドライバー不足という問題はありません。当社はまもなく設立50周年という大きな節目を迎えます。当社としては、ひたすらに利益を追求するのではなく、地域貢献を続けながら、地元の皆様から頼られる会社として、地域から頂戴している当社への信用を守り続けていきます」(同)

最後に、河井社長に今後の同社の将来像について伺った。

「2年後に迎える当社の設立50周年を機に、これまで築き上げてきた当社のあり方を大きく変えるような事業活動をする必要はありません。当社がこの地域で生き残っていくためには、これまでの取り組みを着実に続けていくことが最も大事だと考えています。当社の経営者としては、時代の流れに寄り添いながら、同じ時代をともに生きる地域の皆様に信頼していただけるような経営を続けていきたいと考えています。それは、長年関宿地区で事業を続け、地元根差した様々な地域貢献活動を行ってきた当社だからこそ目指すことのできる道ではないかと考えています。当社の従業員に対しても、折に触れて『この地域で汗を流すことの重要性』を訴えるようにしています。地域の信頼に応え続けることのできる会社を目指して、襟を正して事業を続けていきたいと考えています」(同)

ホットにゅーす

■プードルを3匹飼育

心を和ませてくれる「愛犬たちとのひと時」

河井社長の癒しのひと時となっているのは、飼い犬と遊んでいる時である。

河井社長は自宅でプードル3匹を飼っており(名前は「ヴィヴィアン」、「マリア」、「ダイナ」)、プードルたちと一緒に寝転んでいる時は何物にも代えがたいという。

「小動物は非常に純粋で、『お腹が空いた』『眠い』『運動したい』という三大欲求が満たされると飼い主のことをまっすぐ見てくれます。その愛らしさにとても惹かれます」(同)



かわいらしい愛犬とともに休日過ごす河井社長

企業プロフィール

河井運輸株式会社

代表取締役 河井 哲弥

本社 千葉県野田市平井 257-2

従業員 30人(うちドライバー17人)

台数 17台